

## 音楽部会

### 県研究主題

多様な音楽活動を通して音楽文化の理解を深め、音楽を愛好する心情や豊かな感性、音楽的能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

### 提案 1

提案者 山口 菜見子(湘三地区)

#### <研究主題>

「総合芸術に親しんでいく感性や態度を育てる」 —オペラの楽しみ「魔笛」—

### 1 提案内容

総合芸術「オペラ」の魅力である「声」「声種と役柄との関連」に注目して聴かせ、さらにオペラの魅力を知り、卒業後もオペラに親しむ心を育てたい。また、感じたことの表現や他者の意見を聞くことで視野を広げ、言語活動を充実させたい。

#### (1) 実践上の工夫

##### ① 指導方法の工夫

- ・あらずじ説明や視覚的な教材も使用せず、登場人物の歌詞からキャラクターのイメージを作り、視覚的なものではなく声に集中させた。
- ・教材は生徒が興味をもちやすく、声に特徴があるものを選んだ。また、その中でも声から役柄を選ぶということも行ってみた。

##### ② 評価の工夫

- ・自分の意見の根拠を記述できるようにワークシートを工夫した。
- ・個人で考えた後に班の意見のまとめをすることで、生徒の意見を聞いたり、班活動の様子を見取ったりすることができた。
- ・ワークシートの記述内容からも評価した。例えば、声の音色について具体的に表現する記述ができているかを評価した。

##### ③ 言語活動の工夫

- ・班の人数を4人とし、話し合いで全員が意見を出し合い、聞き合えるようにした。
- ・ボキャブラリーシートや司会者用のレジメを用意し、活動がスムーズに行えるよう工夫した。

#### (2) 成果

- ① 班の人数の工夫により活発な意見交換が行えた。
- ② 課題の明確化により、集中して鑑賞することができ、ワークシートへの記入もしっかりできる生徒が多かった。

#### (3) 課題

- ① 文章を書くことや表現することが苦手な生徒を、どう指導していくかが課題の一つである。

- ② 1年生からの学習の積み重ねや信頼関係を築いていくことが大切である。
- ③ 言語活動の充実を図るには他教科や学年、クラスなどとの連携が必要である。

## 2 協議内容

### (1) 話し合い活動について

それぞれの感性で考えた意見がグループの話し合い活動により、自分の考えが変わったり、迷いが生じたりということもあった。自分の考えに根拠をもち、意見を言えるように自信をもたせることも大切である。

話し合ったことを発表する時に、みんなに分かるよう大きめのホワイトボードなどを班で使用方法も有効である。

### (2) 言語活動の充実のための手立て

きちんとした話し合い活動ができるように、1年生からの人間関係づくり、授業を大切にするためのルールづくりなど、3年間を見通して行っている。また、語彙を増やすために1年生からシートを作り始めている。語彙が不足している生徒にとってはボキャブラリーシートがとても有効であった。

### (3) 評価について

鑑賞の評価の観点や評価の方法が「声」に焦点をあてたことでより明確になって、わかりやすくなっていったと思う。それぞれの感性の違いから、感じ取り方が違うことに気付くことができることも価値観を広げることにつながっている。

## 3 まとめ

### (1) 言語活動の充実をもとめて

音によるコミュニケーション能力を育てていくことが基盤であり、言葉によるコミュニケーションとは異なる性質がある。生徒が思いや意図などを相手に伝え合う活動を、音によるコミュニケーション能力の充実に結びつけるように工夫をしていくことが大切である。鑑賞の活動のみならず、合唱や創作などの表現活動にもしっかりと言語活動を結びつけていく必要がある。

また、言語活動は音楽科だけで充実させていくことはできないので、他教科との連携が必要である。そして相手の話をしっかりと聞き、違った感性をもっていることを認め合うことは道徳的にも大切なことである。話し合い活動も更に充実させる必要がある。

### (2) 評価について

しっかりとした評価を行うためには、まず年間指導計画・年間評価計画の作成が大切である。何をどう指導していくのか、この題材では何を育て、何を評価していくのかしっかりと見極めること、そして他の人の意見や授業を参考にしながら有効なワークシートを作成していくことが必要である。また、1時間の授業での見取りを精選し、行っていくことが大切である。

＜研究主題＞

- ・ 小学校との関連を図り、育てたい力を明確にした3学年間を見通した年間指導計画、評価計画の作成
- ・ 指導と評価の一体化・評価の方法等の工夫による授業改善

## 1 提案内容

横浜市で出されている「横浜版 学習指導要領」に即した観点において、各中学校区147ブロックは小学校と連携し、『学習主題』を軸とした「9年間を見通した指導計画」を作成している。その内容と参考資料を提示した。

『学習の主題』とは、文部科学省による学習指導要領に示された「A表現」「B鑑賞」および〔共通事項〕の内容を重点化し、学習のねらいや内容、活動を簡潔に示したものである。

この『学習の主題』による題材構成は、単に音楽を形づくっている要素等を取り出し、分析的に学習するものではなく、表現及び鑑賞の活動そのものを重視しながら、多様な音楽のよさや美しさに感動したり、活動そのものを楽しんだりする体験をスパイラルに繰り返すことにより、表現及び鑑賞に関する能力を図るようにしたものである。また、この「横浜版 学習指導要領」に基づくカリキュラムマネジメントを基盤に、PDCAサイクルを機能させることで、指導と評価の一体化を図っている。

## 2 協議内容

### (1) 提案内容を受けて

○小学校の校内での公務分担や担当の学年などがよく変わったりするようだが、そういった中でどのようにして引き継ぎなどはされていくのか。

⇒重点校ということもあったので、小学校全教師が、全体像・内容をきちんと把握していたので問題はなかった。教科だけではなかなか動けないので、小学校の研究部会に重ねていくとよいと思う。

○横浜市は小学校全校に音楽専科がいるのか。

⇒「音楽専科」という立場の人は、必ずどの学校にもいる。

○横浜市としての成果をうかがいたい。

⇒各ブロックごとに進み方は様々であるが、「横浜版 学習指導要領」が共通にあることによって、横浜市としての理念・ポイントがぶれることなく進めていくことができる。ただし、地域によって実態は様々なので、それに沿うような形で各ブロックで工夫することが必要である。

### (2) 各地区の状況

(湘南三浦地区)

小・中連携は、児童・生徒指導の連絡が中心になっている。中学校区でブロックに分けて2年間小中連携を推進した名残があり、「小学校の教科指導で困ったことがあったら、中学校に相談してください」という形になっている。

(県央地区)

本校の事例にとどまるが、生徒指導の情報交換の他、お互いに授業参観を行っている。出前合唱、小学校への出前授業などがある。個別に職員とのつながりもあり、ヴァイオリン専門の教師が小学校に演奏をしに行くこともある。道徳との関連で指導計画を作っている。

(中地区)

小中連携は難しい。生徒指導の情報交換程度である。新入生の情報交換、互いの授業参観・文化祭に小学生が(来られる時は)見に来るなど。

教科では、都合がつく音楽の先生が中学校の授業を参観する。その後の連絡会で困っていることを共有したり、情報交換したりしている。各学校区ごとに様々ある。

(足柄上・下地区)

幼小中で10年ぐらい連携を行っている。年に2回ほどの研究授業を行っている。中学校から小学校へ理科や数学は、月2回ほど出前授業、音楽はたまに合唱を教えに行ったり、アドヴァイスをしに行ったりもしている。

### 3 助言

#### (1) 小中一貫の指導計画について

難しいことではあるが、「中一スタートを大切にするための、6年間の学びを知る」ということである。それは、子どもを見取る視野の広げ方の一つであるという視点である。

#### (2) 年間指導計画の作成について

年間指導計画を紙面上で作成することももちろんだが、研究と実践を一体化して研究することが大切である。横浜も今後実践の研究を進めていく。そして内容を精選して変えていく。それぞれの地区の状況にあったものを考えていくことが重要である。

### 4 まとめ

○7月3日 文科省の連絡協議会で提示された内容についての補足説明は以下の通り。

- ・「創作」に関しては、教師がどのように条件設定をして活動させるかが重要。
- ・音楽における表現力は2種類あり、その一つが言語活動、もう一つが音楽に表わす表現力である。音楽においては、本来こちらこそが最も大切な表現力である。言語活動は、その活動の過程として大切なものである。
- ・「鑑賞」のワークシートの記入に関して「音楽で表現されていることは、すべてを言葉で表すことはできない」という前提に立ち、指導することが必要である。言葉で伝えようと努力することが、その曲に対して正面から向き合うことになり、その結果その曲の良さを味わうことになる。
- ・「鑑賞」については、文章表現にとらわれずに、「学習したことを生かし、学んだ言葉を使ってワークシートが記入されているか」という視点で評価することが必要になってくる。
- ・「鑑賞」に関しては、ワークシートを通しての評価が中心になると思うが、1つの題材につき、A4サイズ2枚ぐらいの量におさめるのがよい。ワークシートを見ると、以前に学習したことが思い出せるようなものを工夫する必要がある。
- ・「鑑賞」に関して、その生徒がその曲を好きか嫌いかということではなく、「学習した上で」良さや大切さを感じさせるような展開が重要である。